

I 福山市

ミッション
ビジョン

福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
各中学校区・学校が、**資質・能力**の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 自 校

ミッション		育成する力 資質・能力	自己調整力	論理的思考力	批判的思考力	創造的思考力	
義務教育学校として、学校・地域・保護者が目標やビジョンを共有し、一体となって、主体的に学ぶ子どもたちを育む		めざす子ども像	レベル 1	出来たこと、出来なかったことを振り返り、自己評価を行っている。	根拠となる情報を見つけ出し、それを基に自分の意見を伝えている。	物事を1つだけでなく、2つ以上の視点から考えて、判断している。	目標を達成するために自由な発想で様々なアイデアを導き出している。
学校教育目標			レベル 2	出来たこと、出来なかったことを振り返り、その原因を明らかにして、次への目標や行動を決定している。	複数の情報を適切に選択し、客観的な根拠を提示しながら自分の考えを説明している。	物事を1つだけでなく、2つ以上の視点から考えて、情報や主張の正しさや信頼性について吟味しながら判断している。	目標を達成するために既存の概念を組み合わせたり、付け足したりすることで新たなアイデアを導き出している。
学びあい 育ちあう			レベル 3	活動の過程を振り返り、具体的な課題を特定し、その解決に向けて次の目標や行動を決定し、実行している。	相手の状況や意見に応じて複数の情報を適切に選択し、客観的な根拠を提示しながら自分の考えを説明している。	物事を1つだけでなく、2つ以上の視点から考えて、情報や主張の正しさや信頼性について吟味しながら、日常生活や社会と関連付けて判断している。	目標を達成するために常識や固定観念にとらわれず、新たなアイデアを導き出している。
現 状		研究	テーマ	「できた!」「わかった!」「使えた!」を感じられる授業づくり ～学習した知識・技能を活用し、表現する場を設定した授業を通して～			
<児童・生徒> OSOSEI 学などで地域とかかわることで、地域への愛着や地域貢献への意欲が高まってきている。 ○9割の子どもが、体を動かすことを楽しいと感じている。 ○体育ブースの設置や体育の授業改善等を通して、1学期から2学期で約7割の子どもが体力を向上させることができた。 ○8割以上の子どもが、目標をもち頑張ることができたと感じている。 ●自分のよさに気付いていない子どもが2割程度いる。 ●全国学力テスト 6年 国語 61 (-6)、算数 49 (-14) 9年 国語 52 (-3)、数学 45 (-3) ※ () …全国・市比 特に基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題がある。 <授業> ○教科グループごとに「学習した知識・技能を活用し、表現する場」を設定した授業づくりについて、前期後期一緒に教材研究や検証をしながら授業改善に取り組むことができた。 ○ミッションを解決するようなカリキュラムにしたり、人・場所・もののバンクを活用することで、昨年度よりも地域と関わり合いなが学習を進めることができた。 ●育成する資質能力を意識した授業づくりが十分行えなかった。			内容	知識・技能を使い、表現する場の工夫を通して、知識・技能の定着を図り、「できた!」「わかった!」「使えた!」を実感できる授業づくりを行う。			
		めざす授業の姿	・学習した知識・技能を活用し、表現する場を設定した授業 ・単元でつける力を明確にし、それを定着させるための手だてや工夫を行った授業 ・子ども主語と教材主語を意識した教材研究を中心に据えた授業 ・育成する資質能力を意識した授業				

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立想青学園

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	力切 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力切 評価	達成 評価	総合 評価
4	地域とともに 学ぶことに喜 びを感じられ る子どもを育 成する。	★	継 続	①「地域に愛着を持 っている。」 児童・生徒肯定的回答 95%以上 ②「授業の中で、『で きた!』『わかつ た!』『使えた!』 と感じることがで きた。」 児童・生徒肯定的回答 90%以上	① SOSEI学で地 域と密接に関わ りながら地域の よさを見つけたり 地域の課題を 解決したりする ような授業づく りや、人・場所・ ものバンクを活 用した授業づく りに取り組む。 ② 研究教科ごと にグループを 作り、身につけ た知識・技能を 使い、表現する 場を設定した 授業づくりの 実践・検証・交 流を行う。	①「SOSEI学などの授 業を通して、地域の よさを見つけること ができた。」(低学年) 「SOSEI学などの授 業を通して、地域の ために役立ちたいと いう思いが高まっ た。」(高学年) 児童・生徒肯定的回答 95%以上 ②「身につけた知識・ 技能を使い、表現 する場を設定した 単元づくりを学期 に1回以上行い実 践することができ た。」 教師肯定的回答 100%	①「SOSEI学などの授 業を通して、地域の よさを見つけること ができた。」「地域の ために役立ちたいと いう思いが高まっ た。」85% □講師に助言をいた だきながら、より地 域と関わりながら 探究できる SOSEI 学を各学年で計画 し、進捗状況を交流 しながら取り組ん でいる。 ②身につけた知識・ 技能を使い、表現 する場を設定した 単元づくりを学期 に1回以上行い実 践した。」100% □研究授業では、教科 グループで授業を 考え、一緒に授業を 見て検証し、次に生 かしている。	3	3	・地域のために役立 っていることを実 感できるように、 SOSEI祭を通して 地域・保護者に向 けた発信を各学年 の実態に応じて行 う。また、来校者に 評価をしてもら い、次の学習や意 欲の向上につなが るようにする。 ・人・場所・ものバン クを効果的に活用 して、さらに地域 と関わる機会を増 やす。 ・単元を見通した教 材研究を行うとと もに、基礎学力の 定着につながるよ う短いスパンで確 認、解説、覚え直し をしていく。				
4	共感しあう 集団づくり を通して、 自己肯定感 を育成する。		継 続	①「自分のよさが分 かる。」 児童・生徒肯定的回答 85%以上 ②「自分のよさを周 りのために役立 てている。」 児童・生徒肯定的回答 85%以上	①教科・特別活動 等を通して、自 他のよさを認め 合う活動を取 り入れる。 ②係活動や委員 会活動などを 通して、他者の ために行動で きる場の設定 を行う。	①「目標を持ち頑張 ることができた。」 児童・生徒肯定的回答 85%以上 「自他のよさを認め 合う活動を取り入 れた。」 教師肯定的回答 100% ②「人の役に立つこと ができた。」 児童・生徒肯定的回答 85%以上	「目標を持ち頑張 ることができる。」 87% □学期や行事ごとに 個人目標を設定し たり、掲示するこ とで互いに高め合 えるような環境づ くりを行った。 「自他のよさを認め 合う活動を取り入 れた。」 83.3% 「人の役に立つこと ができた。」83% □行事の前後で、学 年を越えて、励ま しや応援、感謝の メッセージを送り 合ったり、掲示し たりした。	3	2	・検定(漢字・英語・ 数学)の取得者を 校内掲示し、見え る化することで、 自己肯定感を高 め、目標を達成す ることの喜びを実 感できるようにす るとともに、一人 でも多くの児童生 徒に挑戦を促す。 ・上級生から下級生 に向けて、勉強を 教える場面を設定 し、自分の「得意」 を発揮する場を設 けることで、自己 有用感を高める。				

4	自己の体力の課題に向き合い、ねばり強く挑戦し続ける子どもを育成する。	継続	①体力を向上できた子ども 1回目:6月 2回目:10~11月 伸びた子ども 75%以上	①運動の心地よさ、体を動かすことの楽しさを感じることでできる場の設定	①「体を動かすことが楽しいと感じる」 児童・生徒肯定的回答 90%以上	「体を動かすことが楽しいと感じる」 88% □体育ブースを設置し、子どもたちがいつでも運動の親しめる環境を整えた。 □各学級で課題種目を2つ設定し、体育の時間に継続して取り組める運動を計画した。	3	3	・体育ブースをリニューアルし、新体力テストで課題のあった握力、反復横跳び、長座体前屈の記録向上を楽しみながらできるコーナーを新設する。 ・縄跳びや持久走等の学校全体で取り組む運動について、休憩時間に運動に親しめるイベントを企画する。 ・各学級で設定した課題種目に対する取組を、体育の時間に継続して実践する。					
1	地域の教育力を活用した、地域参画型の学校を実現する。	★新規	①コミュニティ・スクールの充実	①地域の人や物、場所が自分たちの学びを支えていることを実感できる振り返りの場の設定する。 ※学園だよりで地域に還元 ②学園だより・学年だよりを各交流館へ配布し、日常的に連携をとることで、地域の方々がCSの取組へ関心をもてるようにする。	①SOSEI学アンケート「地域の人と関わることで、SOSEI学や日々の授業の学びを深めることができた。」 90%以上 ※記述式の感想も集める。 ②地域への情報発信(学園だより毎月1回)(LINEグループチャット・Instagram) ③人、場所、ものバンクの活用計画の作成 ※地域へ周知する。	① SOSEI学アンケート「地域の人と関わることで、SOSEI学や日々の授業の学びを深めることができた。 87.1% ②毎月2号程度の学園だよりの発行と交流館への発信を行った。 ③人、場所、ものバンクを年度初めに全校及び地域に周知した。計画をSOSEI学のカリキュラムと照らし合わせながら作成した。	3	3	・学園だよりに地域の人との交流を掲載し、保護者や地域の方々の興味関心を高めるとともに、他学年での取組を全校生徒が知ることができるようにする。 ・地域の回覧に想青学園だよりを回してもらうことで、地域の理解を深め、関心をもってもらえるようにする。					

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。